

「ウイルスの声を聞く」ほどに没頭 社長業との両立に心を砕く

「ウイルスの声を聞いた」と話す赤畑さん。思いついたアイデアを仲間に話したら、「そんなのできるわけではない」とはねつけられたそうだ。しかし、自分を信じて実行してみたら、大成功。私にも自分の中に別の誰かを置いて対話した結果、仕事が飛躍的に好転した経験があるのを思い出した。一方で、赤畑さんは「運に頼って生きている」とおどける。ウイルスの声を聞くほど集中している人が、運だけで成功するはずがない。まだまだ成長したいと願う目線からは、底知れない深さがうかがえた。 (本紙主幹・奥田喜久男)



ウイルスとの対話によって 理論と感覚が仕事を飛躍させる

奥田 一度、うかがってみたかったのですが、ウイルスはなぜ存在するのでしょうか。

赤畑 長くなるので大ざっぱに言いますと、ウイルスは人間の中から出てきたとも言われています。

奥田 人類の敵というわけではないのですか。

赤畑 ウイルスは、人間の遺伝子におもしろい変化を与えることがあります。その意味では、共存・共

栄しているものも多いんですよ。

奥田 意外ですね。でも、ウイルスを成敗するワクチンは、ウイルスにとって敵になりますよね？

赤畑 ウイルスが「自らを増殖したい」という願望を持っていたら、短期的にみるとワクチンは敵かもしれません。ただ、人間が全滅するとウイルスも増殖できなくなるので、強い毒性で人間を殺してしまうより、弱毒化し人間を殺さずにウイルス自身も増やしていく戦略のほうがいいですよ。その進化には何十年、何百年とかかります。その間、人が死んでいくのを指をくわえて見ているわけにはいかない。その

ためにワクチンがあるんです。

奥田 ウイルスにしても、人間を殺さずに、自分を増やせるほうがいいと？

赤畑 そのように進化していくほうが賢いかもしれません。

奥田 バランスをとって循環しているんだ。ウイルスもやみくもに進化するのではなく、どこかで調整しているのかもしれないね。

赤畑 空想の話みたいになってしまいますが、農家の人が「稲の音が聞こえる」なんて、言うことがあるじゃないですか。



PROFILE 1973年、広島県生まれ。東京大学教養学部基礎科学科卒業。97年、京都大学大学院人間環境学研究所入学。速水正憲教授のもとHIVワクチンの開発に携わる。2002年、同大学院で博士号取得。同年、National Institutes of Health (国立衛生研究所) 入所。09年から「VLP (ウイルスの形をした空粒子)」を使ったチクングンヤ熱のワクチン開発チームを総括。12年、VLPを使ってさまざまな病の新薬を開発するために、VLP Therapeutics (VLPセラピューティクス) を創設してCEOに就任した。

構成／南雲亮平
text by Ryohei Nagumo

撮影／松嶋優子
photo by Yuko Matsushima

2019.8.6 / BCN22世紀アカデミールームにて

奥田 語りかける、とか聞いたことがあります。

赤畑 ワクチンを作るとき、僕たちはウイルスの形をした空粒子のVLP(=ウイルス様粒子)で作ります。でも、ウイルスは遺伝子が入った状態で安定しているので、遺伝子を取り除いて空にするのは不自然で難しい。VLPを開発している当時、VLPを作ることができればいいワクチンになるのは明らかでしたが、普通の方法ではできませんでした。苦心しているなか、あるときなぜかアイデアが浮かんで、実践しようまくいったんです。

奥田 何があったんでしょうか。

赤畑 「こうやったらできるんじゃないの?」と、ウイルスが言ってくれたような気がしました。作り話っぽいですが。そう思えるほど、突然、思いついたんです。みんなに言っても「そんな方法で、できるワケがない」と言われたのですが、僕はできると思ったからやった。すると本当にできた。

奥田 お互いがささやき合ったんだ……。

赤畑 湯川秀樹博士が晩年に好きだった“知魚楽”という、同じような話があります。夏の暑い日に川をスイスイ泳ぐ魚をみて、荘子は「楽しそう」と表現しました。ところが、恵子は「私はあなたでないから、あなたの心は分からない。あなたも魚でないのだから、魚が楽しんでいるかどうか、なんて分かるはずがない」と言います。そこで、荘子は「あなたは、私には魚の気持ちが分からないと、私の気持ちを分かろうと話をしたのだから、私も魚を見て楽しそうだと分かったのだ」と返しました。

この話から、サイエンスを先に進めるには理論と感覚の二つの方向からのアプローチが必要なんだと感じました。また、相手や物の立場になってその気持ちを想像することもできると言っているような気がします。

奥田 自分の中での対話を通して、仕事することで何かを生むわけですね。

赤畑 理論だけじゃない、ということですね。ときには閃きも重要になると。そう考えれば、ウイルスの声が聞こえることもあるかもしれません。

ちなみに、知魚楽の話は私も好きなので、社名にしようと思ったら、「そんな意味の分からない名前はやめてくれ」と言われました。

奥田 それは残念です(笑)

会社のファンは社長のファン 運だけでは事業継続できない

奥田 赤畑さんの研究はワクチンの世界を大きく変える力をもっているとうかがっています。ノーベル賞とかは視野に入れておられますか。

赤畑 狙ってはいませんが、会社を経営するように

こぼれ話

「2位は2位の努力でしかなかった」。女子ソフトボールの上野由岐子さんのこの言葉に感動して試合を見に行ることがある。場所は西武球場。女子ソフトのバッテリーの距離は意外に近いな、と思っていたら、試合が始まってピッチャーが投げる球のあまりの速さに恐怖心すら湧いた。これは尋常なスポーツではないと思った。

上野さんが投げる女子ソフトのチームは2006年、北京で開かれた世界選手権で優勝を逃した。準決勝で勝ったアメリカに決勝戦で負けたのだ。「2位は2位の努力でしかなかった」のだ。2年後の北京オリンピックでは雪辱を果たして金メダル。真実のドラマに放心するほど酔いしれた。自分を制御する自分をどのようにして制御したのだろうか。それ以来、「自分の制御」について考え続けていた。

今回、千人回峰に登場していただいた赤畑渉さんは、気負うことなく、「嘘のように思われるでしょうが、ウイルスの声を聞いたんです」と自分の体験を語る。聞いた実験

手順を周りの人は不可能だと言ったけれども、その通り試したらできました、と。これだと思った。自分の制御とは、実は異次元でのささやきが聞こえるまでの集中力によって導かれる努力の結晶なのだ、と思った。2位から1位へ。「ウイルスと人は共存しているんです。もしウイルスに生きたいという意思があったら、共存の道を選びますよね。人が死んだらウイルスも死ぬわけですから…」。

やはり赤畑さんはウイルスと会話しているに違いない。



なって、応援してくれる人を増やすというのは社長の仕事なのかもしれないと考えるようになりました。

奥田 それに尽きるのではないのでしょうか。だからこそ、露出は多いほうがいいと思っています。

赤畑 露出といえば、ワクチンは一つ作っただけでもインパクトがすごいんです。例えば、マラリアワクチンは世界人口の半分が必要としています。その人たちの生活が少しでも楽になれば、理想的ですよ。それだけでなく、この規模になれば社会貢献にもビジネスにもつながります。

奥田 とんでもない規模ですね。

赤畑 ただ、ワクチンを作るには資金も時間も必要なので、スポンサーが欠かせない。そして、募るためにはファンを増やさないとはいけません。

奥田 そういった意味では、文部科学省科学技術政策研究所の「ナイスステップな研究者」に選ばれたのは良かったですね。知名度アップにつながります。

赤畑 本当にありがたいです。日本の官僚の誰かが私を推して下さったんです。心当たりはあるのですが……。

奥田 見えないところで、見えない人たちが押し上げてくれているのを感じている、と。

赤畑 感謝はしていますが、ときどき「なんでだろう」と考えます。先祖の行いが良かったんでしょうか。運に頼って生きているようなものなので。

奥田 私もそうします。運に頼ると道が開けるんですよ(笑)

赤畑 運だけに頼らないためにも、人間的マチュアになりたいと思っています。

奥田 赤畑さんにとっての人間のマチュアとはどのようなものなのでしょうか。

赤畑 今は会社を伸ばしていくためにも、人を育てることができるようにしたいです。奥田さんほどの

ように考えておられますか。

奥田 私は人間的マチュアには段階があると思っています。年齢を重ねるごとに読む本や聴く音楽も変わりますよね。

赤畑 いつまで成長を続けるのでしょうか。

奥田 死ぬまで成長ですね。考え続ける限り、成長するでしょう。私も、知人がアルツハイマーにかかったので、人の尊厳について考えています。

赤畑 ちょうど今、アルツハイマーの治療法を研究しています。全員を救えるかどうかは分かりませんが、一人でも二人でも助けることができれば幸せだと思います。

奥田 それは朗報だ。私がアルツハイマーになる前までに完成させてください(笑)

赤畑 ぜひサポーターになってください(笑)!

BCNは「ものづくりの環」を支え
育むメディア企業です



——「ものづくりの環」の詩——

ものを使う人がいます
ものを売る人がいます
ものをつくる人がいます

いつの時代も私たちは生活の心地よさを求めます
その意(おもい)が新しいものを生みます

使う人、売る人、つくる人——
私たちは「ものづくりの環」のなかで
すべての人の心が豊かになることを願っています

株式会社 BCN

<http://www.bcn.co.jp/>

※この記事は、BCN+Rの「千人回峰(対談連載)」で公開中です。
<https://www.bcnretail.com/hitoarite/>